



## 「取るに足りない会話」

校長 石川 顕一



▲ 教職員による備品整理、廃棄処分

皆さん、子どもから「人と人は、どうやってつながりをつくっていくの。」と質問されたら、なんと答えますか。誰とでもなんとなくつながることができる人には難しい質問かもしれません。

人と人とのつながりは、初めから深いわけではありません。むしろ、その逆です。つながっているのかよくわからないくらい細いつながりから始まります。そして、そのような細いつながりは、同じような思いを共有したり、互いがつながりたいという思いを受け入れたりすることで少しずつ強くなっていきます。やがて、互いが出し合う”つながりの糸”は絡み合い、絆となっていきます。

子どもにしても大人にしても、人とのつながりをいつも求めています。ですので、「この人とはつながりをもっていいのか」「この人は自分のことをどのように思っているのか」ということが気になり、絶えず相手とのことを観察しています。そして、「自分のことを一人の人間として扱ってくれる」「私の顔を見ておはようと言ってくれる」という些細な出来事が、”つながりの糸”づくりのきっかけとなります。

さて、普段、何気なく行われている日常会話ですが、その大方は取るに足りない内容ばかりです。

- ・ 今日も暑いね。
- ・ その服、かわいいね
- ・ 昨日のレッズ、かつこよかったね。
- ・ 今日の給食、カレーだね。

つまり、コミュニケーションは、内容よりもしているという事実が重要なのです。内容がなんであれ、相手が自分に敵意をもっていないこと、いつでも受け入れる用意があることが、”つながりの糸”づくりにつながるのです。

木崎小学校の子どもたちが教室や廊下で、取るに足りない内容の会話で楽しんでいる姿を目にします。ご家庭でも、よく耳にしていることでしょうか。せっかく子供が取るに足りない話をしてくれているのに、大人は、自分の都合でしっかりと聞いてあげられない時はないでしょうか。学校でも、家庭でも、地域でも、子どもたちの取るに足りない話を真剣に聞いていこうではありませんか。